

THE NIKKEI MAGAZINE

Education

日経マガジン 教育特集号
17 January 2020

中学受験と
子育てを考える



道を切り拓くのは子ども自身
中高一貫校と有力塾に聞く
変化と多様性の時代を生きるヒント

巻頭インタビュー

元服は30歳 それまでは
好きなことに打ち込ませたい
早稲田大学大学院
早稲田大学ビジネススクール教授 入山 章栄氏

元服は30歳 それまでは 好きなことに 打ち込ませたい

米国で経営学の博士号を取得し、“経営学の黒船”として数多くのベストセラーを世に送り出している入山章栄氏。早稲田大学大学院のビジネススクールで教授を務める傍ら、雑誌・テレビ・ラジオのコメンテーターなど多方面で活躍し、気鋭の論客としても知られている。そんな入山氏が、中学・高校時代にどんな学生生活を送っていたのか伺った。

早稲田大学大学院
早稲田大学ビジネススクール教授 **入山 章栄氏**

自らのマイナー志向に気づき 勝てそうな部活をあえて選択

駿(当時)でしたね。

はい。附属高校に内部進学できるのは全体の約3分の1程度なので、このときは懸命に勉強しました。高校ではハンドボール部に入部しました。中学の野球部は楽しかつたけれど、野球は日本ではメジャーなスポーツ。競技人口が多いので、どんなに練習してもなかなか勝てません。それに、自分はそもそもマイナー志向なので、野球には向いていないと気づきました。調べてみると、附高のハンドボール部はそこそこ強かつたので、ここに入部すれば大会でも勝てるんじゃないかと思いました。実際、私が部長を務めた高三時には、東京都のベスト16まで勝ち進みました。

— 入山先生は東京学芸大学附属大泉小学校・中学校、附属高校（附高）のご出身ですね。中高時代はどういう生徒でしたか。

私が附属大泉小学校に入学できたのは本当に”たまたま”です。小学校に上がる前は、文字どおり右も左もわからない子どもでしたから。中学では野球部に所属し、中3のときにキャプテンを務めました。部活動、ゲームセンター、個人塾への通塾が生活の三本柱。毎週、少年漫画誌の発売を待ちわびる、ごく普通の中学生でした。今よりもずっと内向的で、大人數が苦手でしたね。定期試験前も勉強しないでいたので、学校の成績は悪かったです。親からは「勉強しろ」とは特に言われませんでした。中3の前半になぜか一度だけ、校外模試で全国1位になったことはありました

— 附属高校への進学は内部受

かれらは学校へも真面目に行かな

好きなことへの自信を深めた高校時代
— 高校時代の経験は、現在の活動とどうつながっていますか。
高校の夏に部活を引退すると、完全に燃え尽きてしまいました。そ

THE NIKKEI MAGAZINE *Education*

中学受験と子育てを考える — 道を切り拓くのは子ども自身 —

CONTENTS

- 03 卷頭インタビュー
早稲田大学大学院 早稲田大学ビジネススクール教授
入山 章栄氏
- 06 特別対談／デジタル化ーション時代を生きる子どもたち
国立情報学研究所 社会共有知研究センター長
情報社会相関研究系教授 新井 紀子氏
SAPIX YOZEMI GROUP 共同代表 高宮 敏郎氏
- 09 2020年度 中学入試に向けて
森上教育研究所 代表 森上 展安氏
- 10 School Report
広尾学園 インターナショナルコース
帝京大学中学校・高等学校
- 12 品川翔英中学校・高等学校
- 14

日経マガジン エデュケーション 広告特集
企画・制作＝日本経済新聞社

デザイン・構成／広真アド
取材・文／cubix、盛田 栄一、仲谷 宏(拓文社)
撮影／梅澤 みゆき、近藤 豊(帝国写真)、知久聰史

— 本特集に関するアンケートにお答えいただいた方の中から、抽選で図書カード2,000円分を10名様にプレゼントします。
★詳しくは14ページへ



[左]修学旅行での一コマ
[下]ハンドボール部の仲間と。3番が入山氏



親世代の価値観は

すでに通用しなくなっている

くなり、毎日自宅を出るのは11時過ぎ。「これから一週間、自主合宿するから」と自室に閉じこもることもありました。とうとう欠課(欠席)数が学年1位になり、「卒業できなくなから、学校に来い」と担任の先生に言われて。附高はとにかく、自由な校風でした。両親からも、特に怒られた記憶はありません。今思えば、立派な両親だったとリスペクトしています。

附高での勉強面で今でも覚えてるのは、高1か高2のとき、自民党総裁選に関するレポートを書いたこと。候補に挙がっていた政治家を一人ずつ分析し、「次の総理は小沢一郎だ」というプレゼンをしました。データを分析し、人前で自分の意見を言い切るのはすごくおもしろいと感じました。今、多くの知識を集めてもう一度話す仕事をしていませんが、その原体験はこれかもしれません。

校内サッカー大会も印象に残っています。サッカー大会はサッカーボルに触ることさえできません。そこで私は、あえて不人気なゴールキーパーに立候補しました。「ボールに触れる」という目的を達成するには、それが最良の手段だと考えたから。ハンドボール部を選んだ思考と同じですね。今振り返ると、他人と違った分野で勝負しようと、点で、自分らしい選択だったと思います。

**アメリカ留学直前に
経済学から経営学に転向**

——大学は慶應義塾大学経済学部に進学されました。

経済学に興味があつたわけではありません。慶應の経済に進学したのは、合格した大学のなかで偏差値が一番高かつたからです。大学でも最初の2年間は遊びほうけていましたが、3年生で国際経済学の木村福成先生のゼミを取り、経済学のおもしろさに目覚めました。当時「ニューヨーク州立大学オルバニー校で助教授を務めていた木村先生は、経済学の最前線に立っていて、とにかく格好良かった。それからは経済学を真面目に勉強し、就職するつもりがなかつたので大学院へ進学しました。

大学院の修士課程修了後、三菱総研に入社しますが、木村先生などの影響で、「海外で研究者生活を送りたい」という希望はすっと抱いていました。それで入社3年目に、アメリカで経済学の博士号を取るために、複数の大学を受験。実際に、いくつかに合格しますが、渡米直前に「待てよ」と思いました。ここでも、私のマイナー志向が顔を出します。経営学のほうが自分に向いているのではないか。経済学が「データを解析して理論を数学で書く」のに対して、経営学は同じデータ解析をするものの、理論は英語や日本語など自然言語で書いていい。私自身、数学の能力に限界を感じても

たので、ここで進路を変更しました。

「アメリカで経営学の博士号を取る」と目標を修正し、その後の2年後

の2003年にピツバーグ大学ビジネスクールに留学。アメリカで

は研究者生活を10年間続けまし

た。毎年成果を出さなければなら

ないで厳しい戦いでしたが、あの

経験があるからこそ今がある、と考

えています。

——ご自身の学生時代を振り返りつつ、最後に読者へのメッセージをお願いします。

まず保護者の方に言いたいのは、

子どもに自分の価値観を押しつけ

ないこと。社会は急速に変化してい

ます。人生100年時代を迎

えた今、生き方の方向性は30歳くら

いまでに決めればいい。むしろ20代

であれこれともがいた人のほうが、

30代以降、おもしろい人生を歩んで

います。早いうちから目標を定める

のではなく、お子さんを信じて、好き

なことに打ち込める環境を用意し

てあげましょう。また、人として喜怒哀楽をきちんと表現できることも、

大切なコミュニケーションなどと教

えてあげてください。

入山 章栄(いりやま あきえ) Profile

1972年東京生まれ。東京学芸大学附属大泉小学校、同大学附属大泉中学校、同大学附属高校にて、慶應義塾大学経済学部卒業、同大学大学院修士課程修了。三井総合研究所で自動車メーカーや国内外政府機関関連の調査とコンサルティング業務に従事し、2008年米国ピツバーグ大学経営大学院よりPh.Dを取得。同年、米国ニューヨーク州立大学ハーバード大学ビジネススクール助教授に。2013年より現職。2012年刊行の『世界の経営学者はいま何を考えているか』(英治出版)、2015年刊行の『ビジネススクールでは学べない世界最先端の経営学』(日経BP社)がベストセラーになるなど、著書多数。「男1女の父」。



定感を持ち続けていられるのは、どんな学生生活を送っていても、私の生き方を両親が肯定してくれたからだと思います。私は最近、「30歳成人説」を唱えています。人生100年時代を迎えた今、生き方の方向性は30歳くらいまでに決めればいい。むしろ20代であれこれともがいた人のほうが、30代以降、おもしろい人生を歩んでいます。早いうちから目標を定めるのではなく、お子さんを信じて、好きなことに打ち込める環境を用意してあげましょう。また、人として喜怒哀楽をきちんと表現できることも、大切なコミュニケーションなどと教えてあげてください。

「将来に向けてのキャリア構築」も、これから時代は無意味でないことは、社会は急速に変化しているので、親世代の価値観はすでに通用しないと考えたほうがいい。

まず保護者の方に言いたいのは、子どもに自分の価値観を押しつけないこと。社会は急速に変化していくます。人生100年時代を迎えた今、生き方の方向性は30歳くらいまでに決めればいい。むしろ20代であれこれともがいた人のほうが、30代以降、おもしろい人生を歩んでいます。早いうちから目標を定めるのではなく、お子さんを信じて、好きなことに打ち込める環境を用意してあげましょう。また、人として喜怒哀楽をきちんと表現できることも、大切なコミュニケーションなどと教えてあげてください。

SAPIX YOZEMI GROUP 共同代表
(代表取締役副社長)

高宮 敏郎 氏 (たかみや しろう)

1997年慶應義塾大学経済学部卒業後、三菱信託銀行(現三井UFJ信託銀行)入社。2000年、学校法人高宮学園代々木ゼミナールに入职。同年9月から米国ペンシルベニア大学に留学して大学経営学を学び、博士(教育学)を取得。04年12月に帰國後、同学園の財務統括責任者として従事し、09年から現職。SAPIX小学校・SAPIX中学校・Y-SAPIXなどを運営する日本入試センター代表取締役副社長などを兼務。

単に文章を読むトレーニングをするだけではなく、実感を伴つた理解ができるようになると、生活を見直すことも必要ですね。

新井 紙子 氏 (あらい のりこ)

2019年12月に発表されたPISA(学習到達度調査)の結果報告は、日本の子どもたちの「読解力」がさらに低下したことを見た。その二因と言わるのがデジタル化による言語環境の変化だ。未来を生きる子どもたちは、これからどんな力を身につければよいのか。人工知能(AI)開発の過程で浮かび上がった、子どもたちの「読解力不足」に警鐘を鳴らす国立情報学研究所社会共有知研究センター長の新井紀子教授と、SAPIX YOZEMI GROUP共同代表の高宮敏郎氏に語り合つてもらった。

新井 最近、東京地裁に招かれて判事を向けて講演をしました。そのとき、ある判事さんから「子どもが文を読みながら、どうしたらよいか」という質問を受けました。私は「金庫を買つてはどうぞ」とアドバイスしたんです。金庫を買って、夕方になつたらお母さんもお父さんも子どもたちも、スマホとタブレットを金庫に入れ、翌朝まで開けない決める。家族全員がスマホなしの生活を送るのです。そうすれば夜は家族で話をしたり、一緒にテレビを観たり、本

新井 ネット社会の影響もあるのか

2019年12月に発表されたPISA(学習到達度調査)の結果報告は、日本の子どもたちの「読解力」がさらに低下したことを見た。その二因と言わるのがデジタル化による言語環境の変化だ。未来を生きる子どもたちは、これからどんな力を身につければよいのか。人工知能(AI)開発の過程で浮かび上がった、子どもたちの「読解力不足」に警鐘を鳴らす国立情報学研究所社会共有知研究センター長の新井紀子教授と、SAPIX YOZEMI GROUP共同代表の高宮敏郎氏に語り合つてもらった。

体験と会話でリアリティーの涵養を

読解力は「学ぶ力・生きる力」の基礎

新井 先生が進めてこられたプロジェクトは東大に入るか(東口ボ)」AIに大学入試問題を解かせることでAIの可能性を探ると同時に、「AIは文の意味が理解できない」という限界を浮き彫りにしたプロジェクトでした。その過程で、実は子どもたちも文をきちんと読めていないことがわかりました。そこで開発されたのが基礎的な読解力を測定するための「リーディングスキルテスト」です。このテストは大きな反響を呼び、関連フォー

ラムも毎回活況を呈しています。2019年11月に代ゼミタワーで開催されたフォーラムでは、「読解力を高めるためのモデル授業」が行われました。中学生対象の数学の教材を使つた授業で、私も見学させていただきました。この授業にはどのような狙いがあったのでしょうか。

新井 数学で「読解力」の授業は珍しいでしょう。しかも、今回参加した中学生は、学校も学年もまちまち。

数学が得意なお子さんも、そうでない

お子さんもいました。

計算や式の扱いが得意でも、数学の文章を正確に読んだり書いたりするこ

とが身についている生徒はとても少

い。ですから今回は、数学固有の知識やスキルを問うのではなく、数学の文章を正確かつエレガントに読んだり書いたらしくがポイントです。

高宮 先生が子どもたちに「999は大きい数か」と問いかけると、何人かは「大きい」と答えています。別

の数と比較して「大きい」ではなく、自分の常識で判断して「999は大きい」と言つたようです。

新井 最初に三つの文を挙げ、どれ

が命題であるか選んでもらいました。

命題とは真偽がはつきりする文です。

国立情報学研究所 社会共有知研究センター長
情報社会相関研究系教授

新井 紀子 氏 (あらい のりこ)

一橋大学法学部および米国イリノイ大学卒業。イリノイ大学大学院数学科博士課程を経て東京工業大学より博士(理学)取得。国立情報学研究所助教授を経て現職。2011年よりAIプロジェクト「ロボットは東大に入るか」を率いる。16年より読解力を診断する「リーディングスキルテスト」の研究開発を主導。著書に『AI vs. 教科書が読めない子どもたち』『AIに負けない子どもを育てる』(いずれも東洋経済新報社)など。

高宮 先生は読解力をテーマにした講演会などで、「リアリティー」という言葉をよく使われます。たとえば、昔は兄弟が多く、何でも兄弟で分ける生活が当たり前だったので、「分ける」ことのリアルティーがあつて分数を教えやすかった。でも、今はそうではない。そんなお話を伺つことがあります。五感も同じ

新井 様々な体験が言葉にリアリティーを与える

高宮 先生は読解力をテーマにした講演会などで、「リアリティー」という言葉をよく使われます。たとえば、昔は兄弟が多く、何でも兄弟で分ける生活が当たり前だったので、「分ける」ことのリアルティーがあつて分数を教えやすかった。でも、今はそうではない。そんなお話を

新井 幼少期は主体的に五感を鍛え「感覚的な気づき」を養つてほしい

高宮 たとえば、YouTubeで温泉の映像を見てわかつた気になつても、実際に行ってみると熱かたり硫黄臭がつたり、感覚で感じる部分があるわけです。そこを大事にしてほしいということですね。同じ「暑い」にしても、日差しが強くてひりひりする

新井 さいときから父に「数学は大事だ、数学をやりなさい」と言われていました。でも、自分が父親の立場になってみると、子どもたちにどう数学の大切さを伝えたいのか、悩むことがあります。

高宮 最近は、体調が悪くても自らゴートを着たまま汗をたらたら流している子がいます。こちらが「温度を下げる?」とか「脱いだら?」と言わない限り、何もない。我慢しているといつより、自分の状況に気づいていないようです。

高宮 それは高齢者が熱中症になると、部屋に暖房が入つていて暑さなのか、湿度が高くてムシムシする暑さなのか、そういう違いを肌で感じることが大切ですね。

新井 分で気づかない子が結構います。たとえば、部屋に暖房が入つていて暑さなのか、湿度が高くてムシムシする暑さなのか、そういう違いを肌で感じることが大切ですね。

高宮 いのに何となく食べたり、のどが渇いていないのに何となくいつもちびちび飲んでいたりと、行動にメリハリがない。脳を活性化させるにはメリハリが大事ですが、そのためには幼少期にバランス良く五感を鍛えておくことが大切です。

高宮 親はつい先回りして「寒いからもう一枚着なさい」と言つてしまいますが、本来は自分で気づいて自分でやるべきことですね。

新井 そうですね。お腹が減つていな

いのに何となく食べたり、のどが渇いていないのに何となくいつもちびちび飲んでいたりと、行動にメリハリがない。脳を活性化させるにはメリハリが大事ですが、そのためには幼少期にバランス良く五感を鍛えておくことが大切です。

高宮 親はつい先回りして「寒いからもう一枚着なさい」と言つてしまいますが、本来は自分で気づいて自分でやるべきことですね。

新井 それは高齢者が熱中症になると、部屋に暖房が入つていて暑さなのか、湿度が高くてムシムシする暑さなのか、そういう違いを肌で感じることが大切ですね。

高宮 ううん、田んぼは、こういうものだよ」とタブレットで見せることがあります。

新井 タブレットを使ってリアリティーを伝えるのも一つの方法でしょ。でも、歩く経験はたくさんさせたほうがいいと思います。最近は、平らなところしか歩けない子が結構います。砂浜を歩かせても、すぐに転ぶ。足の裏の感覚が弱くなつているのですね。一足歩行は人間の基本ですから、歩くことはとても大切です。私たちは生活が便利になると、便利になつたことは喜びますが、それによつて失くしたことは目を向けません。便利になつて失われたことのなかに、実は大事なものがあるのではないか。そう気づくことが大切だと思います。

高宮 読解力の話で言うと、本当に正確に読み取る力をつけるために、単に文章を読むトレーニングをするだけではなく、実感を伴つた理解ができるように、生活を見直すことでも必要だということですね。

本日は、ありがとうございました。

新井 数学は大切です。これからは、数理的な理解について苦手意識があると仕事がしにくくなり、活躍の場が狭まつてくると思います。

「リバーラーニング&サイエンス」とよ

く言われるよう、リバーラーニングと、文系の人間にサイエンスのリテラシーがないのも問題です。近代科学としてのサイエンスとは、「数学を正当性の説得の上で用いる」分野です。

数学を共通言語として用いる分野と異なる「マイルール」を持ち出してしまつです。数学の教科書では正しい文しか目にしていないので、よけいに混乱したの

「真偽が客観的に判定できません」

「①999は大きい数である」「②999より1000は大きい数である」「③999より10000は大きい数である」の三つです。語彙はほぼ同じ。けれども、真偽がはつきりするので命題ではない、「①999は大きい数である」だけは、

「②999より1000は大きい数である」、「③999より10000は大きい数である」などはどうでしょう。これは偽な文で思い込む生徒もいました。定義とは異なる「マイルール」を持ち出してしまつです。数学の教科書では正しい文しか目にしないで正解は②と③。

「②999より1000は大きい数である」と「真である」はどうでしょうか。これは偽な文であります。

「真偽が明確であること」と「真であること」の違いを正確に説解させること

が、この最初の問い合わせでした。

中学生で数学に苦手意識を持つお子さんは少なくないようです。数学は、小学校で学んだ算数の延長線上にあるものではなく、科学の言葉として新たに学ぶものだと意識させること

が、この最初の問い合わせでした。

中学生で数学に苦手意識を持つお子さんは少なくないようです。数学は、小学校で学んだ算数の延長線上にあるものではなく、科学の言葉として新たに学ぶものだと意識させること

が、この最初の問い合わせでした。

中学生で数学に苦手意識を持つお子さんは少なくないようです。数学は、小学校で学んだ算数の延長線上にあるものではなく、科学の言葉として新たに学ぶものだと意識させること

が、この最初の問い合わせでした。

中学生で数学に苦手意識を持つお子さんは少なくないようです。数学は、小学校で学んだ算数の延長線上にあるものではなく、科学の言葉として新たに学ぶものだと意識させること

が、この最初の問い合わせでした。

**男子校で受験者が増加
大学付属校の人気も続く**

——ます、2019年度の中学校入試の概況について教えてください。

首都圏の中学校受験者数は4年連続で増加しました。この活況の背景には、首都圏の公立小学校6年在籍者数が増加したことに加え、高大接続の教育改革の影響があるでしよう。改革の要である大学入試改革に向けて、早めに対応しようという保護者の強い思いを感じます。難関大学への合格実績の高い学校や学校改革に積極的な学校とともに、大学の付属校・系属校は応募者を増やしています。

——20年度の中学入試の動向をどのように予測されていますか。



Nobuyasu Morigami
森上 展安 氏

早稲田大学法学部卒業後、進学塾塾長などを経て、1988年に私立中・高や学習塾を対象とするコンサルタント「森上教育研究所」を設立。現在は同研究所の代表を務める一方、受験や中高一貫教育についての豊富な情報と経験を生かし、評論・分析の分野でも活躍。ほぼ毎週、中学校受験の保護者を対象に、著名講師陣による「わが子が伸びる親の『技』研究会」(oya-skill.com)を開催している。

目前に迫る厳しい戦い 第一志望合格を目指して 気持ちを高めていこう

2020年度の中学校入試が迫っている。首都圏の中学校受験者数は増加を続け、受験生には厳しい戦いとなりそうだ。教育改革や入試改革を打ち出す学校が増えるなか、注目を集めているのはどんな学校なのか。来年度の動向を森上教育研究所代表の森上展安氏に聞いた。

2020年度

中学入試に向けて

受験者数は19年度より3.2%ほど増えています。特に男子校の伸びが顕著です。東大への合格実績が良かった駒場東邦や栄光学園をはじめ、難関校はいずれも元気。城北、巣鴨、世田谷学園、本郷、海城、芝など、最難関に続く上位校も軒並み増加しています。このところ受験者数を伸びてきた中堅校も微増、その下の中位校は1割ほど減少する状況です。最難関校に大きな変動はないでしょう。

女子校と共学校は昨年度並みです。ただし、神奈川では、湘南白です。ただし、湘南白

**男子校で受験者が増加
大学付属校の人気も続く**

——ます、2019年度の中学校入試の概況について教えてください。

首都圏の中学校受験者数は4年連続で増加しました。この活況の背景には、首都圏の公立小学校6年在籍者数が増加したことによると、高大接続の教育改革の影響があるでしよう。改革の要である大学入試改革に向けて、早めに対応しようという保護者の強い思いを感じます。難関大学への合格実績の高い学校や学校改革に積極的な学校とともに、大学の付属校・系属校は応募者を増やしています。

百合学園などの女子校と桐光学園、桐蔭学園、山手学院といった共学校で受験者数が増えそうですが、全体に女子の共学人気は続々と、中位以下の女子校の競争は緩和されると考えています。

入試日程では、20年は2月2日

が日曜日となるため、プロテスト

ントの共学校である青山学院が入試を3日に移します。また、これまで3日前のみだった男子校の暁星が2日に参入し、一般入試を2日前と3日前の2回

行うことでもユースになります。

た。

——19年度は大学付属校・系属校が好調でした。人気は続きそうですか。

特に女子の人気が高止まりしているため、女子は厳しい戦いを強いられそうです。男子は女子ほどではないにしても、どこも倍率

が3倍から5倍の入試になります。成城学園、成蹊、明治大学付属中野、学習院といった半付属校が好調なのも、学校自体の魅力に加え、大学全体のブランドの上昇や

大学の入学定員の厳格化が影響していると感じます。東洋大学京北、芝浦工業大学附属、関東学院も人気です。

——入試直前に心がけておきたいことを教えてください。

入試ではミスをしない取りこぼしをしないことが一番重要です。みんなが正解する問題ができるのですから。そして、自分の第一志望を大事にしてほしいですね。この時期、どこを受けるかという話

を友だちとするなかで、お子さんの決心が揺らぐことがあるかも

しません。しかし、自分が決めた第1志望校は最後まで大事にすべきです。そこに向けてマインドセットし、気持ちを高めてほしい

と思います。

入試が近づくと、親子関係がぎりぎりすることもあると思いま

す。保護者の方はお子さんの前で

はゆとりを持って「大丈夫だよ」と

言ってください。「こんなに頑張っ

てきたのだから大丈夫。普段どおりの答案が書ければ心配ないよ

といふ声掛けを続けてあげる

が一番だと思います。